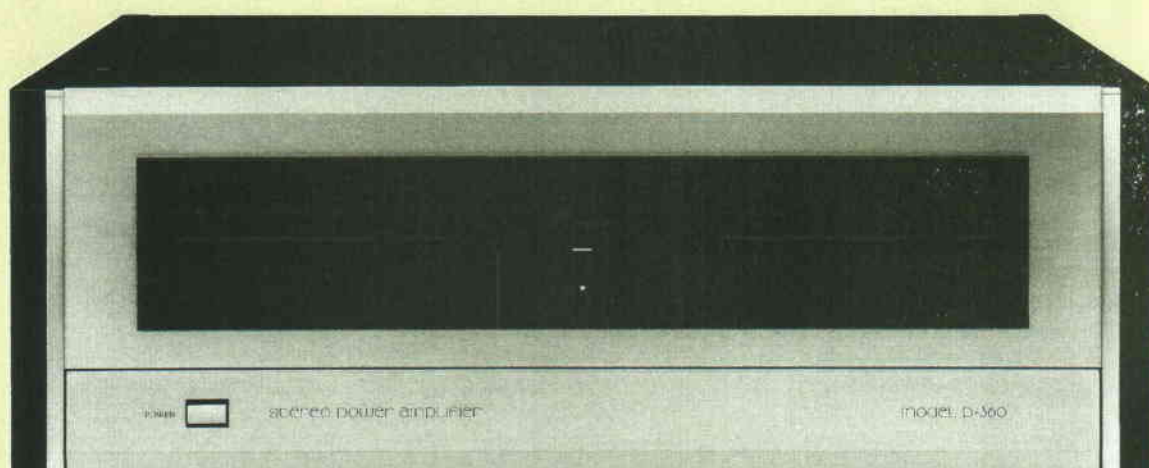


STEREO POWER AMPLIFIER

P-360

ステレオ・パワーアンプ

取扱説明書



Accuphase

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程および結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思えます。末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

お 願 い

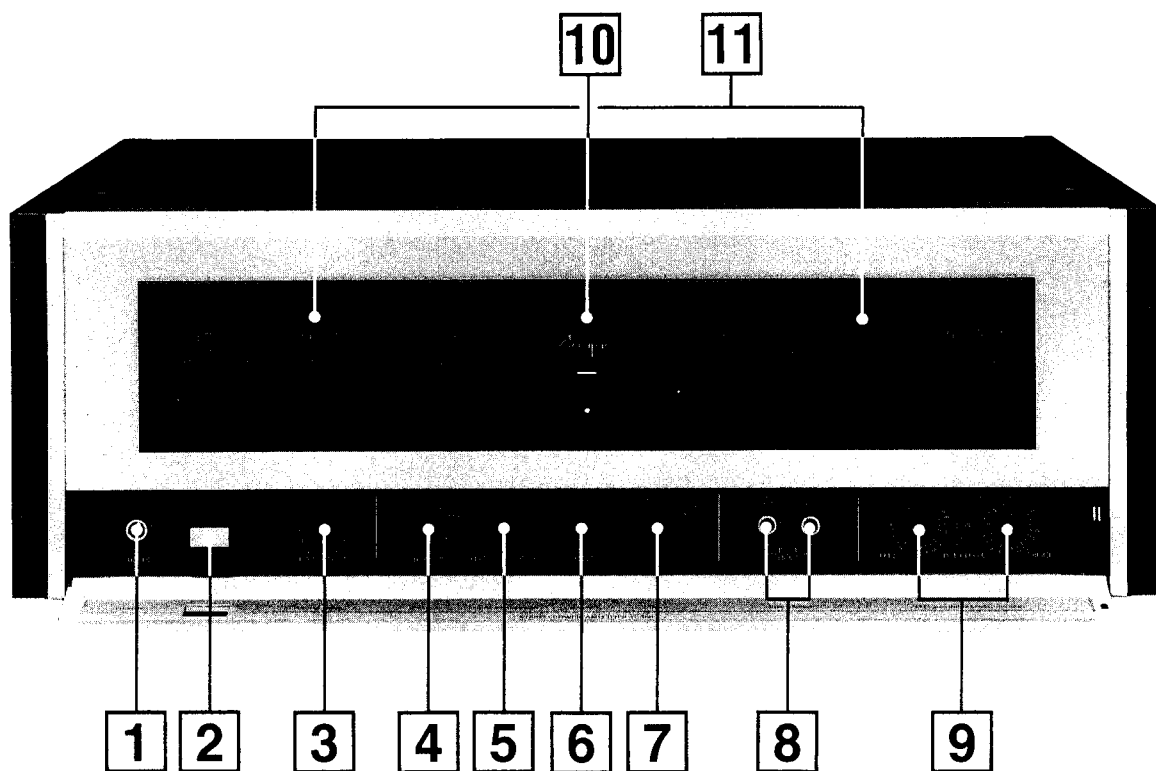
お客様カードを付属していますから、これに必要事項をご記入のうえなるべく早く（お買上げ後10日以内に）ご返送ください。お客様カードと引きかえに品質保証書をお届け申し上げます。

製品に関するお問い合わせ、または異常が認められるときは弊社、品質保証課または、お求めの専門店へ、直ちにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

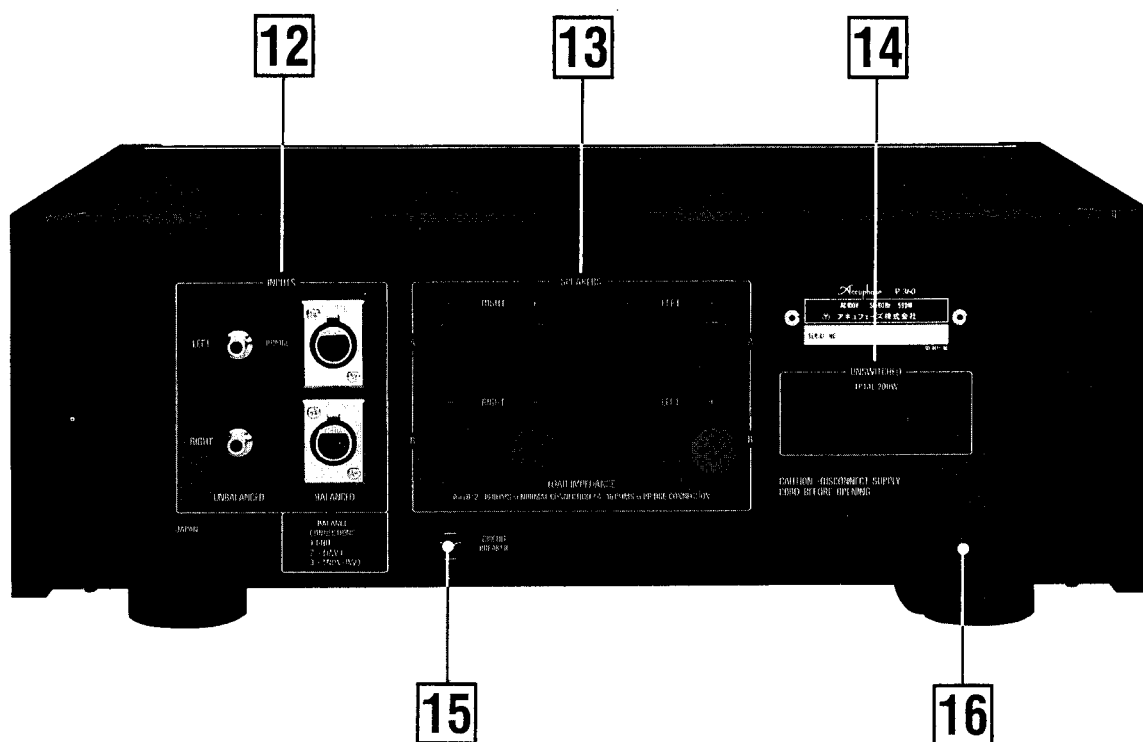
目 次

接続図	2
特長	3
各部の動作説明	4
ブリッジ接続	7
ご注意	8
保証特性	9
特性グラフ	10
ブロック・ダイアグラム	11

フロントパネル

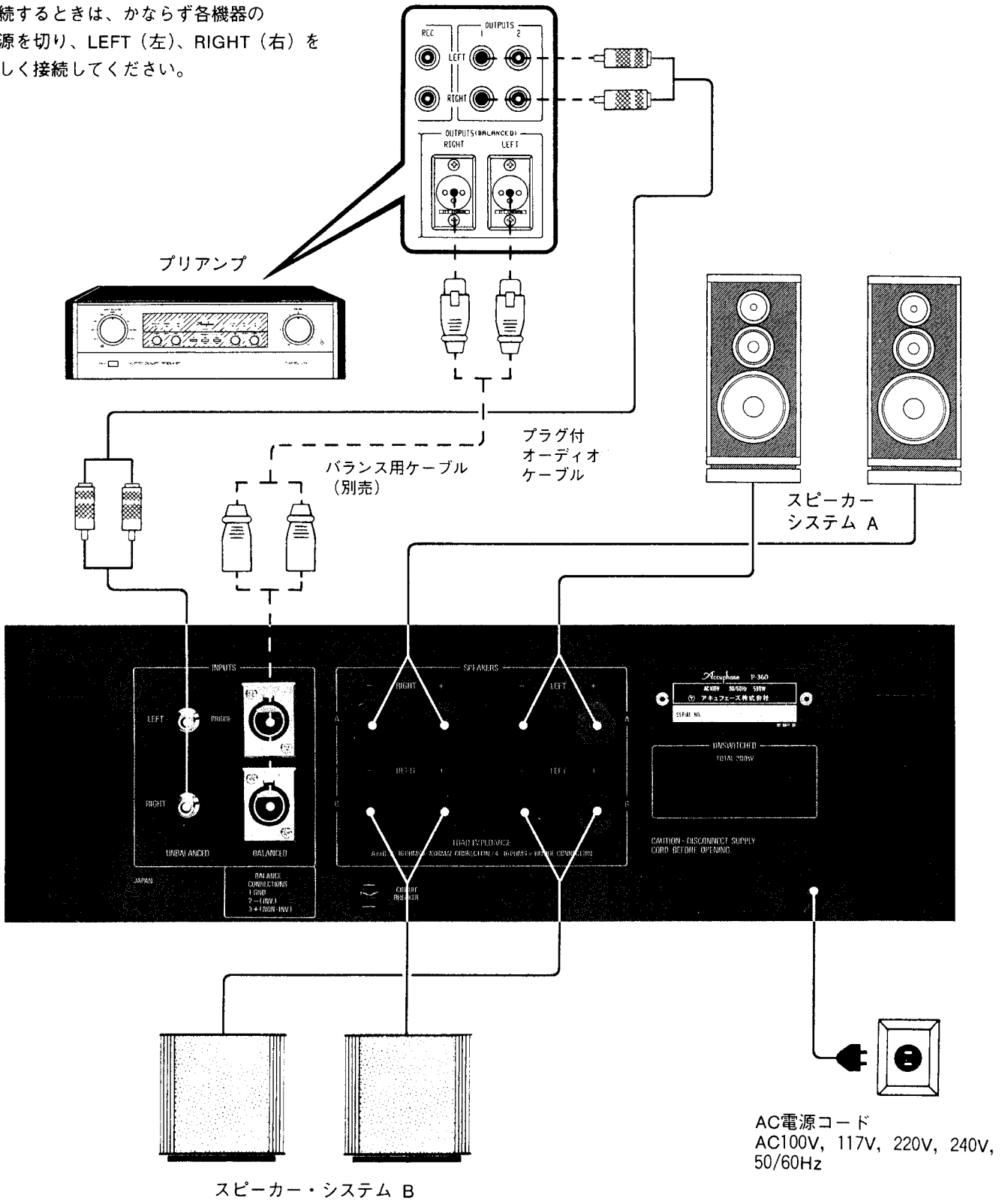


リアパネル



接続図

接続するときは、かならず各機器の電源を切り、LEFT (左)、RIGHT (右) を正しく接続してください。



AC電源コード
AC100V, 117V, 220V, 240V,
50/60Hz

特長

■7-パラレル・プッシュアップの強力出力段により、 $8\Omega=200\text{W}/\text{ch}$ 、 $2\Omega=400\text{W}/\text{ch}$ の充実パワー

スピーカーの負荷インピーダンスは、周波数によって大きく変化します。そして公称 8Ω のスピーカーでも周波数によって 2Ω 前後になることもあります。このように変動する負荷（スピーカー）を忠実にドライブするには、パワーアンプの出力インピーダンスが十分に低くなければなりません。

本機は、大電流容量トランジスターを7-パラレル・プッシュアップで構成、 1ms （ $1/1000$ 秒で 1kHz の音楽信号に相当）では実に 210A という大電流を取り出すことが可能です。これは、 1Ω 負荷でピーク値 44kW の大電力に相当し、低負荷インピーダンスに対しても理想的な駆動を可能にしました。

■高効率の大型トロイダル・トランスと大容量フィルター・コンデンサーによる強力電源部

充実した低音の再生は、電源部の電力供給能力によって左右されます。これを満たすには、電源トランスの容量が大きいこと（効率が大きいこと）、平滑コンデンサーのエネルギー保有能力が高いこと（容量と電圧、つまりCV積が大きいこと）が挙げられます。本機では、トランスに最も効率の高い大型 1kVA のトロイダル・トランス、そして平滑コンデンサーには、 $40,000\mu\text{F}/80\text{V}\times 2$ が使用され、 $20\text{Hz}\sim 20,000\text{Hz}$ まで平坦な出力電力を得ています。

■小出力時のひずみ率と高域の安定度を改善した「A級カスコードPP+MOS FETカスコードPP」ドライブ段

ドライブ段にMOS FETを配し、しかもこの部分をカスコード・プッシュアップで構成し、小信号時の特性を大幅に改善しました。しかも、出力段がバイポーラ・トランジスターで温度傾斜が正、ドライブ段がMOS FETで温度傾斜が負となり、互いに相殺し合って良好な、安定度の高いパワーアンプを形成しています。さらにプリドライバーには、同様に「A級カスコード・プッシュアップ回路」を用いていますので、一層MOS FETの安定度が増しています。

■外来誘導雑音の影響を受けないバランス接続

国際規格のXLRタイプ・コネクターにより、あらゆるインピーダンスのバランス出力を接続することができます。

本機のバランス入力回路は、差動入力回路のプラス、マイナス入力へそのまま信号を注入する、最も理想的な構成です。そのために、連動誤差の少ない高品質 1dB ステップ2連アッテネーターを採用しました。

■「DCサーボ方式」による直結アンプを構成

アンプの入力は信号がダイレクトに印加される直結方式です。理想的には直流領域までダイレクトである方が良いので

すが、わずかな直流入力でも大きく出力され、スピーカーにダメージを与えてしまいます。ここで、DC領域は増幅しにくくするアキュフェーズ・オリジナルの「DCサーボ」をかけて、直流をカットしています。この方式は、同時にアンプ自体の出力オフセットを抑えるようにNFBをかけてありますので、温度変化に対しても安定した動作を約束します。

■理想的な「FET入力平衡差動ピュアコンプリメンタリー・プッシュアップ」回路

入力段は、平衡差動ピュアコンプリメンタリー・プッシュアップになっていて、+（ノンインバート）、-（インバート）入力にそれぞれ高入力インピーダンス・低インピーダンス駆動のFET入力バッファアンプが接続されています。バランス入力時には直接これらの端子に入力され、アンバランス入力時には、-入力は接地され、+入りに信号が入ります。

■ブリッジ接続により、 $8\Omega=600\text{W}$ 、 $4\Omega=800\text{W}$ の純粋モノフォニック・アンプにグレードアップ

通常ブリッジ接続時は、一方のアンプに位相反転回路を挿入しますが、本機は二つのアンプの差動入力回路の極性を利用し、お互いに逆相信号が入力されるように接続変更する方法で、特別の回路を挿入しないで、純粋な切替回路を構成しています。

■左右の音量を精密にコントロールする鏡面仕上げ独立2連入力レベル調整器を採用

入力レベル調整器は、特にひずみ率の小さい鏡面仕上げのアッテネーターを採用しました。このため、ひずみ特性が良好で耐摩耗性に優れ、しかもブラシと抵抗体の間にはグリーンなどの、音質を損なうようなものは塗られていません。

■音質重視の専用ヘッドフォン・アンプ回路を内蔵

入力FET方式のサーボコントロールによるヘッドフォン専用のアンプと専用のボリュームにより、スピーカーの音量とは無関係にコントロールすることができます。

■デシベルとワットage目盛り付きピーク・パワーメーター

対数圧縮型のピーク表示により、 $-50\text{dB}\sim +3\text{dB}$ 間の広範囲なレベルをデシベル（dB）と 8Ω 負荷時における出力電力が直読できます。

■バイ・ワイヤリング・スピーカーも接続できる出力端子

スピーカー出力端子は、2系統を切り替えることができ、並列接続にして駆動することもできます。したがって、バイ・ワイヤリング・スピーカー（低音／中高音に別々の入力端子が装備されたスピーカー・システム）の接続も可能です。

各部の動作説明

1 PHONES— ヘッドフォン出力ジャック

ステレオ・ヘッドフォンで聴くときに、このジャックにヘッドフォン・プラグを差し込んでください。本機は専用のヘッドフォン用アンプを内蔵していますから、音量調節は③ PHONES LEVELを使用してください。⑨ INPUT LEVELは無関係です。

- インピーダンス4Ω～1kΩのヘッドフォンをご使用ください。
- ヘッドフォンだけで聴くときは、④ SPEAKERSスイッチをOFFにしてください。
- “ブリッジ接続”時でも、LEFT/RIGHT端子両方に信号が入力されていればステレオで聴くことができます。

2 POWER—電源スイッチ

押して電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで、約6秒間はミュート回路が作動していますので出力はありません。電源を入れると同時に“Accuphase”の文字が点灯し、ミュート解除と共にインジケータ“—”が赤く点灯します。

3 PHONES LEVEL— ヘッドフォン・レベル調整

ヘッドフォンの出力レベルを調整するつまみで、右へ回すと出力が増大します。ヘッドフォン専用ですのでスピーカの音量調整とは無関係です。

4 SPEAKERS—スピーカー切替スイッチ

リアパネル⑬のスピーカー端子“A”、“B”に2系統のスピーカーを接続することができ、それらを選択するためのスイッチです。

A, B

各ポジションの1系統どちらかを選択してください。

A+B

2系統のスピーカーを同時に鳴らすことができます。両方の出力端子は並列接続になっていますので、同時に鳴らすときは、4Ω以上のインピーダンスのスピーカーを接続してください。

バイ・ワイヤリングを推奨しているスピーカー・システムには、A端子側、B端子側それぞれから低音用、中・高音用出力を取り出して配線し、このポジションにします。

OFF

スピーカーからの出力はOFFになります。ヘッドフォン出力は無関係です。

5 BRIDGE CONNECTION— ブリッジ接続ON/OFFスイッチ

本機を600W（8Ω負荷）のモノフォニック・ハイパワー・アンプとして使うときは、このスイッチを“ON”にします。モノ・アンプとして使うときは、スピーカーの接続が変わりますのでご注意ください。ステレオ・アンプとして使用しているときにONにすると、左右のスピーカーの位相が逆相になりますので注意してください。“ブリッジ接続”については7ページに詳細な説明があります。

6 METER— パワーメーターOFFスイッチ

このスイッチを“OFF”ポジションにすると、⑩パワーメーターの作動が停止し、照明ランプも同時に消灯します。

7 INPUTS—入力端子切替スイッチ

このスイッチは、リアパネル⑫の入力端子およびフロントパネル側⑧の入力端子を選択し、入力ポジションを切り替えるためのスイッチです。

UNBALANCED：リアパネル側のアンバランス入力端子

BALANCED：リアパネル側のバランス入力端子

（キャノンタイプ）

FRONT：フロント側の入力端子

8 INPUT FRONT—フロント側入力端子

入力端子切替スイッチを“FRONT”にしたとき、リアパネルの入力端子とまったく同じように、信号を入力することができます。

ブリッジ接続で、モノフォニック・アンプとしてご使用になるときは、この入力端子も“LEFT”へ入力してください。

9 INPUT LEVEL—入力レベル調整

本機へ入力する信号のレベルを調整するつまみです。LEFT (左) チャンネル、RIGHT (右) チャンネルの出力レベルを単独で調整でき、左回しで出力が減衰します。最大“0”から左へ回して“20”の位置(−20dB減衰)まで1dBステップになっています。通常は最大“0”でご使用ください。マルチアンプ・システムにこのアンプをご使用のときなどのレベル調整に有効です。ヘッドフォンの出力調整にはこのつまみは無関係です。

ブリッジ接続でモノフォニック・アンプとして使うときは、LEFT (左) チャンネル側のつまみでレベル調整をしてください。RIGHT (右) チャンネル側は無関係です。

10 ディスプレイ部

各スイッチの動作ポジションなどを、LEDの点灯により表示します。

出力表示LED

出力がある場合には、中央部の“—”が赤く点灯します。電源ON時など、ミュート回路が動作して出力がない場合には消灯します。

BRIDGE CONNECTION

⑤BRIDGE CONNECTIONスイッチが“ON”のとき点灯し、本機はモノフォニック・アンプとなります。

SPEAKER A/B

④SPEAKERスイッチのポジションに対応して点灯します。“A+B”ポジションでは両方点灯、“OFF”ポジションではいずれも消灯します。

11 PEAK POWER—ピーク指示型パワーメーター

このパワーメーターは、ピークレベル指示型になっていますので、きわめて短時間のうちに振幅や周期が変化している音楽や音声信号のピーク値をメーターが表示するように回路が構成されています。したがって、瞬時のピーク値を読みとりやすくするために、メーター指針の立ち上がり時間に比べて、帰りの時間が遅くなっています。また、プログラム・ソースにノイズがあつたり、パルス性の信号が多く含まれている場合には、聴感上の音量感と多少違った感じになります。

メータースケールは、出力レベルをdB(デシベル)で表示するとともに、8Ω負荷のワット数が直読できるようになっています。4Ωで2倍、16Ωの時は1/2の値が出力になり、正弦波の場合には下記のような出力値になります。

8Ω負荷	4Ω負荷	16Ω負荷
0dB=200W	0dB=400W	0dB=100W
-10dB= 20W	-10dB= 40W	-10dB= 10W
-20dB= 2W	-20dB= 4W	-20dB= 1W

ブリッジ接続でモノフォニック・アンプとして使用の場合

左右チャンネルのメーターが同一の指示をします。ただしこれは、正弦波のように対称波形入力のときで、音楽や音声信号のようにパルス性の波形や非対称波形が入力された場合には、メーターの指針は同一の値を示しません。

スピーカーへ供給されるエネルギーは、メーターの指示値の6dB(パワー値は4倍)アップになります。スピーカーのインピーダンスが8Ωの場合、直読目盛の4倍の値が実際の出力です。(例えば、−20dBまで振れると8Wの出力)。16Ωの場合には直読目盛の2倍になります。

12 INPUTS—入力端子

RCAタイプ・ピンジャックが入力インピーダンス20kΩのアンバランス入力、XLRコネクターは40kΩのバランス入力です。バランス出力を装備しているプリアンプの信号は、“BALANCED”側コネクター(XLR-3-31相当型/XLR-3-12C相当品に適合)で受けてください。バランス伝送は外来誘導、空間雑音の影響を受けにくく、不要ノイズによる音質劣化を防ぐことができます。バランス・コネクターのピン接続は、1:グランド、2:インパート(−)、3:ノン・インパート(+))になっています。

フロント・サブパネル内の⑦ INPUT スイッチで“UNBALANCED”、“BALANCED”の選択をしてください。

なお、ブリッジ接続の場合は、アンバランス、バランス入力とも“LEFT”側を使用します。詳しくは、7ページを参照してください。

13 SPEAKERS—スピーカー端子

“A”、“B”2組の端子に2系統のスピーカー・システムを接続することができます。低インピーダンス駆動能力に優れている本機は、2~16Ωのスピーカーを接続することができます。

スピーカー切替スイッチを“A+B”にして、同時に2系統のスピーカーを鳴らすときや、ブリッジ接続にしてモノフォニック・アンプとしてご使用になるときは、4~16Ωのスピーカーを接続してください。

ブリッジ接続のときは、LEFT (+) をプラス端子、RIGHT (+) をマイナス端子としてスピーカーに接続し、(-) 側には何も接続しないようにしてください。7ページに詳細な説明があります。

14 UNSWITCHED—電源スイッチに連動しないスイッチ

本機の電源コードが室内のACコンセントに接続されている場合、電源スイッチのON/OFFに関係なく、他の機器へ電源を供給することができます。接続する機器の消費電力の合計が200Wを超えないように注意してください。

15 CIRCUIT BREAKER—サーキット・ブレーカー

スピーカー・ケーブルのショート等による過大電流や、極端な過負荷で本機の最大電流を超えて回路内を電流が流れた場合、このブレーカーの頭部が飛び出して電流を遮断します。

サーキット・ブレーカーが作動したときは、スピーカー配線のチェック、負荷を軽くする、出力を下げる等の処置をして、サーキット・ブレーカーの頭部を押し込んでください。

リセット後、ブレーカーが再度作動するときは、回路内の異常が考えられますので、弊社の品質保証課またはお求めの専門店へご連絡くださいますようお願いいたします。

16 AC電源コード

■AC電源の極性について

室内のコンセントは、大地に対して極性をもっています。アンプのACプラグにもこのような極性があり、室内のACコンセントとアンプの極性を合わせた方が、音質上良い結果が得られる場合があります。

電源コードのプラグの片側に“W”の刻印が打たれています。このW側が接地側『W極』になっていますので、室内コンセントの極性がわかっている場合は、互いに合うように接続してください。なお、この極性は合わせなくても実用上問題になることはありません。

室内コンセントの極性は一般に、向かって左側（穴が右に比べて大きい）が『W極』ですが、不明のときはチェッカーで確認をする必要があります。

本機のUNSWITCHEDコンセントも向かって左側がW極になっています。

■AC電源電圧の変更について

P-360は使用できる電源電圧を100V、117V、220Vおよび240Vの4段階に切り替えられます。底板側、電源トランスの近くにあるジャンクション・ターミナルで接続変更をする必要があります。電源電圧を変更したときは、サーキット・ブレーカーの電流容量の変更も必要です。

電源電圧の変更に際しては、弊社の品質保証課、またはお求めの専門店へご連絡くださいますようお願いいたします。

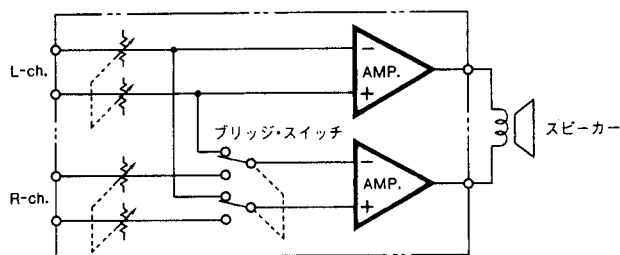
ブリッジ接続

“ブリッジ接続”にするときは、必ず電源スイッチを切ってから接続してください。

2チャンネル・パワーアンプの入力に同一信号を入れて、出力側のマイナス(−)極同士を接続し、それぞれのプラス(+)極から信号を取り出します。このままの状態では、出力はゼロになってしまいます。そこで入力側で片チャンネルだけ信号の位相を反転しますと、各チャンネルには互いに逆位相の信号が入り、出力にも逆位相の信号が現れます。その結果、2倍の信号電圧が負荷(スピーカー)に加えられることとなります。このように電圧が2倍になりますと電力は4倍、つまり4倍のパワーが得られることとなります。

しかし、現実のアンプでは、回路内の損失や出力トランジスタの電流容量の制限を受けますので、ステレオ時の4Ω負荷で出し得る2倍が、ブリッジ接続をしたときの8Ω負荷の出力になります。

このようにステレオ・パワーアンプを1台のモノ・アンプとして接続することを“ブリッジ接続”といいます。通常はブリッジ接続をするときに一方のアンプに位相処理回路を挿入しますが、本機は下図のように、二つのアンプの差動入力回路の極性を利用し、互いに逆位相の信号が入力されるように接続変更する方法で、特別な回路を挿入しない純粋な切替回路で構成されています。



P-360のブリッジ接続回路
(バランス入力時：スイッチの位置はブリッジ接続側)

〈ブリッジ接続に切り替えたとき〉

■負荷インピーダンスは実際の負荷の半分になります。

ステレオ・アンプをモノ・アンプ(ブリッジ接続)として使うときは、1つのチャンネルに対する負荷インピーダンスは、実際の負荷の半分になります。インピーダンス8Ωのスピーカーを接続したときは、チャンネル当り4Ωのスピーカーが接続されたときと同じこととなります。

P-360をブリッジ接続にして使うときは、4Ω以上のスピーカーをご使用ください。

■増幅度について

一般にブリッジ接続に切り替えると、スピーカーに加わる電圧が2倍になります。言い換えると、増幅度が2倍になったことと同じで、デジベルで表現すると“6dBアップ”になりますが、P-360は使いやすさを考慮して、増幅度が変わらない設計になっています。したがって、プリアンプの出力レベルが変わらなければ、ブリッジ接続にしても音量レベルは変わりません。

■ダンピング・ファクターは半分になります。

2チャンネルのアンプの出力回路が直列に接続されることになり、アンプの出力インピーダンスが2倍になりますので、ダンピング・ファクターは半分になります。しかし、もともとP-360のダンピング・ファクターが高いので、実用上はまったく支障ありません。

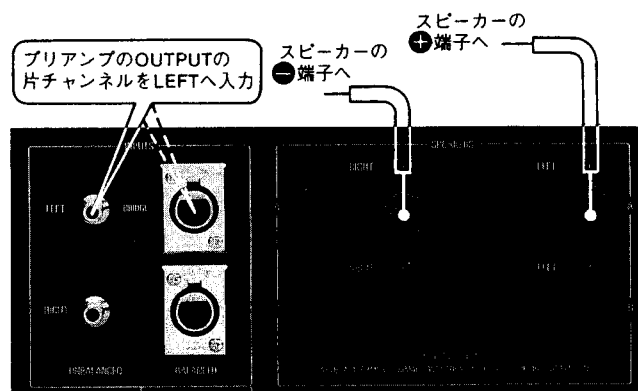
■ブリッジ接続にしたときのパワーメーターの指示については、5ページに説明があります。

〈接続方法〉

電源スイッチを切ってからフロントパネル⑤の“BRIDGE CONNECTION”スイッチを“ON”にしてください。

- 入力信号は、INPUT端子の“LEFT”へ入れてください。入力レベルの調整はLEFT側で行い、RIGHT側は無関係になります。(UNBALANCED、BALANCEDともに同じです。)
- SPEAKER端子のLEFT (+)とスピーカーのプラス(+)、RIGHT (+)とスピーカーのマイナス(−)端子を接続してください。(A、Bのスピーカー端子ともに同じです。)
- SPEAKER端子(−)側には何も接続しないようにしてください。

P-360はモノフォニック・アンプになるため、片チャンネルの接続を示しています。



ご注意

■パワーアンプの空気孔はふさがないようにしてください。

ハイパワーアンプはかなりの熱が出ます。回路内を大電流が流れますので温度上昇も相当なものになります。アンプ上下にあけてある空気孔の近くに通風を妨げるようなものを置いたり、通気の悪い狭い場所へセッティングすることは絶対に避けてください。また、直射日光の当たる場所でのご使用も避けてください。

■他の機器と直接重ねて設置しないようにしてください。

本機の上下にプリアンプやパワーアンプなどを重ねて使用すると、冷却効果を妨げるとともに、高利得のプリアンプのときには電磁誘導を受けてハムを発生したり、チューナーでは不安定な動作の原因となることがあります。

■電源はプリアンプのVOLUMEを下げてから切ってください。

電源を切るときには、必ずプリアンプのVOLUMEを下げてから行うことを習慣づけましょう。

パワーアンプに信号を通したままの状態では電源をOFFにすると、ミュート回路のリレー接点を傷め、接触不良の原因になります。アキュフェーズ製品のパワーアンプに使用しているリレーは、電流容量も大きく、厳選されたものですが、VOLUMEを下げることにより、リレー接点の状態を常にベスト・コンディションに保てるわけです。パワーアンプのレベル調整ツマミはその都度下げる必要はありません。

■レコード・プレーヤーなどを操作するときは、必ずプリアンプのVOLUMEを下げてから行ってください。

ハイパワーアンプを使用して、カートリッジをレコード盤面から上げたり下げたりするとき、聴感上それほどの音圧を感じなくても、スピーカーには超低域の大電流が流れて、スピーカーを破損する場合があります。

必ずプリアンプのVOLUMEを下げてから操作してください。

■入出力コードを抜き差しする場合は、必ず電源を切ってから行ってください。

特にRCAタイプのピンプラグ（通常のオーディオ機器に使用されているもの）をジャックから抜き差しするときは、（+）側、（-）側ともに同時に入ったり切れたりせずに、（+）側が先に入ったり、残ったりするために、一瞬（-）側が浮いた状態になって大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となることがあります。

プリアンプやパワーアンプなどの入出力コードを抜き差しする場合は、必ず電源をOFFにしてから行ってください。

■2台以上のアンプ、スピーカーを切り替えて使用するとき

切替ボックス等を使って、2台以上のアンプ、スピーカーなどを切り替えてご使用になる場合は、ボックス内でアース側が共通になっていないとアンプの異常発振を誘発する原因になります。ボックス内のアース側が共通になっていないことを確認の上でご使用ください。

ブリッジ接続にした場合は、スピーカーの両極は、アンプのマイナス側（シャーシ）に対して常に電位をもっています。このためスピーカーまでの信号ケーブルは両極ともに独立した状態でないと、過電流が流れます。したがって、切替ボックスでスピーカーを切り替えて使用するときには、両極ともに完全に独立して切り替わるタイプのものご使用ください。アースが共通接続になっているものでは過電流が流れ、アンプを破損することがあります。

■その他

- 電源コードは無理に曲げたり、重い物をのせたりしないでください。電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って行ってください。
- トッププレートや底板は絶対にはずさないでください。内部に手などで触れますと感電事故や故障の原因となり、大変危険です。
- 本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

保証特性

[保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる]

連続平均出力 (20~20,000Hz間)

ステレオ仕様時 (両チャンネル同時動作)

400W/ch	2Ω負荷
300W/ch	4Ω負荷
200W/ch	8Ω負荷
100W/ch	16Ω負荷

モノフォニック仕様時 (ブリッジ接続)

800W	4Ω負荷
600W	8Ω負荷
400W	16Ω負荷

全高調波ひずみ率

ステレオ仕様時 (両チャンネル同時動作)

0.02%	2~16Ω負荷
-------	---------

モノフォニック仕様時 (ブリッジ接続)

0.02%	4~16Ω負荷
-------	---------

IMひずみ率

0.003%

周波数特性

20~20,000Hz	+0	-0.2dB
(連続平均出力時、レベル・コントロール MAX)		
0.5~160,000Hz	+0	-3.0dB
(1W出力時、レベル・コントロール MAX~-6dB)		

ゲイン (利得)

28.0dB (ステレオ/モノフォニック仕様時共)

負荷インピーダンス

ステレオ仕様時	2~16Ω
モノフォニック仕様時 (ブリッジ接続)	4~16Ω

ダンピング・ファクター

ステレオ仕様時	300
モノフォニック仕様時 (ブリッジ接続)	150

入力感度 (8Ω負荷)

ステレオ仕様時

1.59V	連続平均出力時
0.11V	1W出力時

モノフォニック仕様時 (ブリッジ接続)

2.76V	連続平均出力時
0.11V	1W出力時

入力インピーダンス

バランス 40kΩ アンバランス 20kΩ

S/N (A補正)

120dB	入力ショート	連続平均出力時
100dB	入力1kΩ	1W出力時

ステレオ・ヘッドフォン

適合インピーダンス 4~1,000Ω

出力メーター

対数圧縮型 -50dB~+3dBおよび出力直読目盛

使用半導体

63 Tr 32 FET 10 IC 77 Di

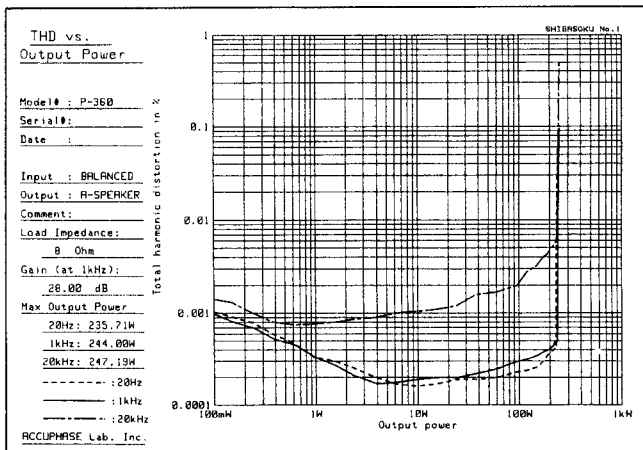
電源および消費電力

100V、117V、220V、240V	50/60Hz
100W	無入力時
590W	電気用品取締法
633W	8Ω負荷定格出力時

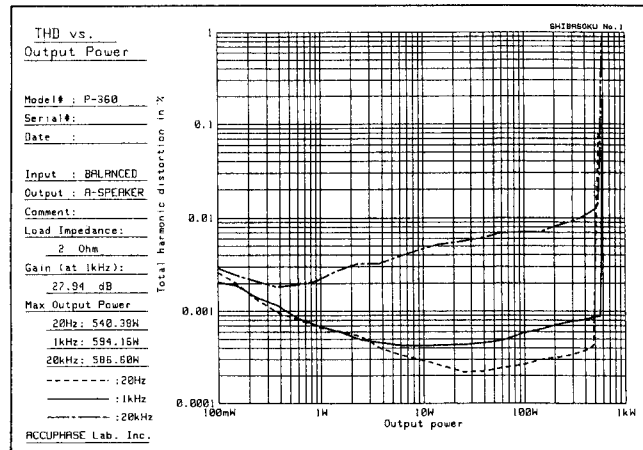
寸法・重量

幅475mm×高さ180mm (脚含む)×奥行409mm
27.4kg

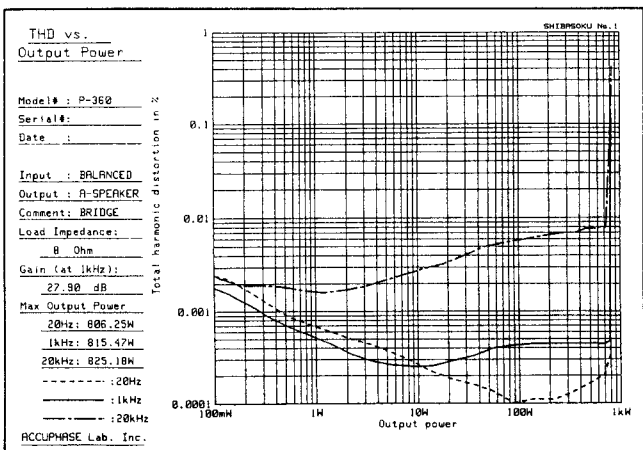
特性グラフ



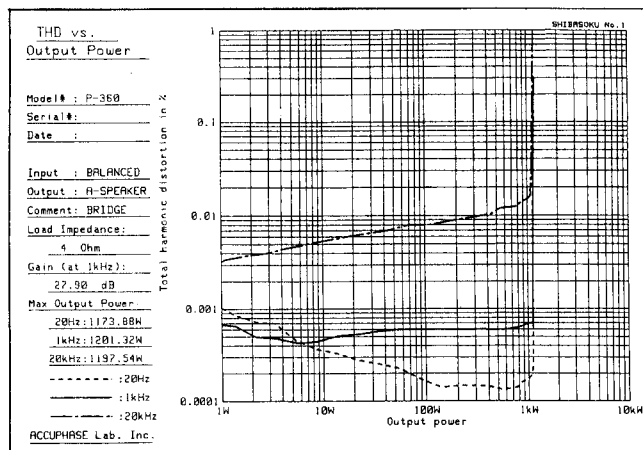
出力電力：全高調波ひずみ率特性
(8Ω負荷、ステレオ仕様時)



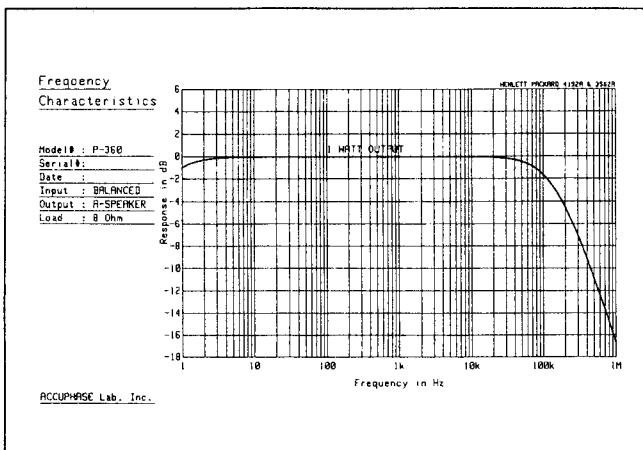
出力電力：全高調波ひずみ率特性
(2Ω負荷、ステレオ仕様時)



出力電力：全高調波ひずみ率特性
(8Ω負荷、モノフォニック仕様時)

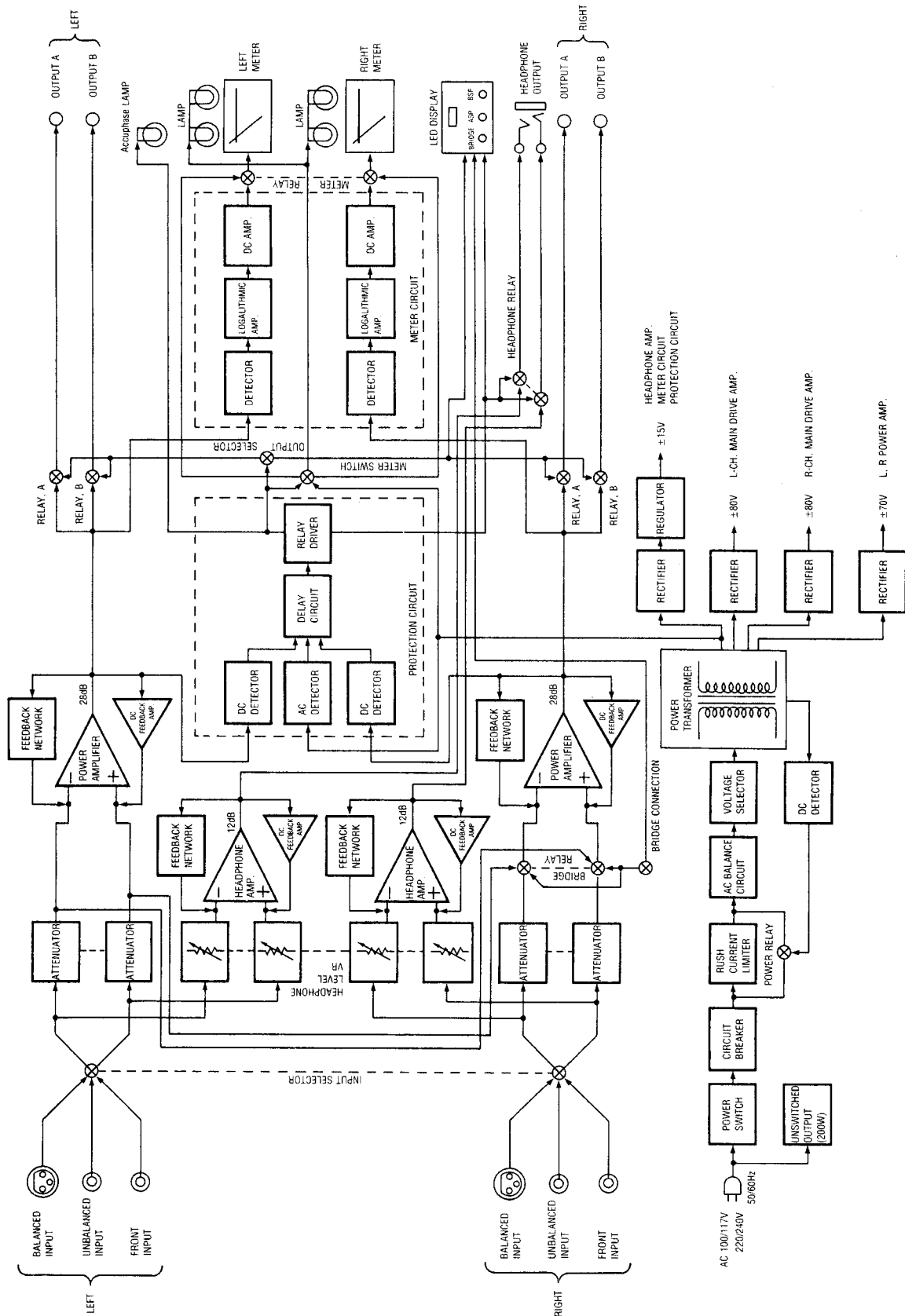


出力電力：全高調波ひずみ率特性
(4Ω負荷、モノフォニック仕様時)



周波数特性

ブロック・ダイアグラム



Accuphase

ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市緑区新石川2-14-10

〒225 TEL(045)901-2771(代表)